

米国の中学校の必修科目「ウェルネスとキャリア」の視察； ガイダンスの目標、社会科の目標との関係を中心に

青木多寿子
(2012年2月10日受理)

Inspection about a required subject “Wellness and Career” in middle school in USA;
the relation with the goal of guidance and social study.

Tazuko AOKI

The purpose of this paper is to report the inspection about a required subject, “Wellness and Career” in 8th grade in Kansas City, Kansas, USA. They used the programs developed by National Career Development Guidelines in USA and Blueprint for Life/Work Designs in Canada. The programs consisted of some unique components. I analyzed them with some materials; the objectives of this subject, the student goal of guidance in this district and the goal of social study. I found some reason why the name of class is not “Career” but “Wellness and Career”. I suggested some points of views to establish flourish career education in Japan.

Key words: career education, wellness, USA, guidance, social study.

キーワード：キャリア教育、ウェルネス、アメリカ、ガイダンス、社会科

インターネットが普及し、社会のグローバル化が進んでいる。日本の伝統的なやり方に踏襲したくても、いやおうなく、世界経済の影響の波は押し寄せてくる。このような社会の変化の中、フリーターやニートの増加が指摘されるようになり、加えて高校や大学の新卒者の就職が厳しくなっている。今の日本はキャリア教育の充実が必要な時期だと言えるだろう。

キャリア教育に早くから力を入れた国はアメリカである。アメリカでは1930年代に、世界恐慌を景気として膨大な青年失業者を出したため、連邦政府は組織的なガイダンス政策を取るようになった。その際、就職が厳しかったことから、ガイダンスでの力点が職業指導だけでなく、学習指導、人格形成や余暇指導など、全人的な指導の方向へと転換していった。こうしてガイダンス運動は、公民性指導、道徳性指導、人格指導、余暇指導の重要性が学校に浸透してゆき、学校教育の大きな柱となった。加えて職業指導は、ガイダンスの一領域と見なされるようになった(吉田, 2006)。

ガイダンスとは一般に、「個人を、彼の生活における危機的な事態に際して、賢明な選択・適応・判断を行うように援助することである」(Jones, A. 1951)である。日本では、これを「生徒指導」と訳して用いられる。

そして日本の生徒指導でも、「ガイダンス機能を重視すること」と記載されている(文部科学省 2008)。しかし、ガイダンス機能とは具体的に何をさすのか、必ずしも明確でないように思える。

この点、アメリカのガイダンスは、明確なゴールと領域が記されている。そして学校や教育委員会全体で共通認識され、各場面に反映されている(青木, 2006)。そしてキャリア教育は、カウンセリング・プログラムの中にも主要な要素として含まれている(青木, 2007)。では、具体的にどのように、キャリア教育の中にガイダンス機能が反映されているのだろうか。そこで本稿では、青木(2007)で紹介したカンザス州の公立小学校¹に接続する公立中学校で、2000年に視察した中学校での必修科目、「ウェルネスとキャリア」について紹介し、そこで展開されているキャリア教育について、この学区のカリキュラムの目標、学区のガイダンスの理念等の資料とともにまとめている。

1. カンザス州 A 学区のキャリア教育について

視察したのは学業レベルの高い学区の公立中学校で、学校のカリキュラムは学区共通になっている。Table 1 には、中学校3年間²の必修科目と選択科目を示している。これを見ると、8年生に「ウェルネスとキャリア」という、キャリアに関わる授業が開講されており、これが必修科目になっていることがわかる。

この学区では、公立高校は学区に4校あり、入試もなく、近くの公立学校に進学できる³。しかし日本のように普通科、工業科、商業科、音楽科のような専門の学校に別れていない。つまりアメリカの高校は、まるで日本の大学のような仕組みを取っており、一つの高校で、一人一人が異なる選択科目を履修することによって、職業専門的なコースも選べるし、大学進学コースも選べるし、職業訓練もできるようになっている。

これらのことから、生徒達は、高校生になる前に、自分の将来の進路に従って、自分で自分の受講科目を選択してゆく必然性が生まれる。そして、自分で自分の受講科目を進路に沿って選ぶためには、その前の中学校段階である程度、職業の種類や内容、どんな講義

を選択する必要があるのかを把握しておかなくてはならない。このような制度上の必要性もあり、中学校の段階で、キャリアに関わる科目が必修科目となっていることが推察できる。

では、必修科目の「ウェルネスとキャリア」では、具体的にどのような授業を展開しているのだろうか。著者は、ある日半日、8年生の「ウェルネスとキャリア」を見せて頂いた。加えて、その授業を受けている、ある一人の学生のご自宅を訪問して授業の流れについてインタビューし、この授業についての資料等を入手した。さらに、この学区が保護者に配付している教科学習についての学校の具体的な内容を説明したハンドブック、学生が教科の選択の際に参考にするスケジュールガイドの資料を入手した。これらを手がかりに、この学区での必修科目、「ウェルネスとキャリア」の内容について考察する。

2. 授業の構成と教材（「Real Game USA」）の紹介⁴

「ウェルネスとキャリア」は、8年生を4つのグループに分けて、国語、数学、理科、社会の各教師が、

Table 1 カンザス州の公立中学校のカリキュラム (1999-2000)

	6年生	7年生	8年生
基礎科目 (必修)	・科学(生物・物理・地学)	・科学(生物・物理・地学)と 環境, 健康問題, 体の機能	・科学(生物・物理・地学)
	・数学	・数学 ・上級数学	・8年生の数学 ・代数学
	・社会(歴史・地理・古代ギリシャ文明)	・社会(市民論; 有能で責任感ある 市民の内容. 政治的決着, 政治への 参加のスキルを身につける)	・社会(アメリカの歴史; 南北 戦争から現代まで)
	・コミュニケーション・アート (読み書き, 聞くこと, 話すこと)	・コミュニケーション・アート (読み書き, 聞くこと, 話すこと)	・コミュニケーション・アート (読み書き, 聞くこと, 話すこと)
	・保健(AIDS, 性差, 安全, ウェルネス)	・ライフスキル(学習スキル・意志決定 個人差, 健康)	・ウェルネスとキャリア
	・体育	・体育	・体育
	・総合テクノロジー		
	・バンド	・バンド	・バンド
	・管弦楽	・管弦楽	・管弦楽
	・オーケストラ	・オーケストラ	・オーケストラ
選択科目	・合唱	・合唱	・合唱
	・外国語	・コンピュータアプリケーション(12) ・スペイン語(12) ・ドイツ語(12) ・フランス語(12)	・コンピュータ技術 ・初級スペイン語 ・スペイン語 I ・フランス語 I ・ドイツ語 I
	・家庭科	・食物(調理を含む)(12) ・衣類(裁縫を含む)(12)	・生活上での意志決定 ・衣類とデザイン
	・技術	・技術	・技術
	・スピーチと演劇	・スピーチと演劇(12)	・スピーチ ・演劇
	・ビジュアルアート	・ビジュアルアート(12)	
	・発見学習	・発見学習	・発見学習
	・学習ストラテジー	・学習ストラテジー	・学習ストラテジー
		・教師の援助	・教師の援助

1/4 ずつ担当しておられた。先生方は、一学期に同じ授業を4回行うことで、全員に同じ授業ができるように配慮しているとのことだった⁵。本稿では、その中で特に興味深かった、「Real Game USA」というプログラムを用いた社会科の先生の担当部分を紹介する。

社会科の先生が、教材として使っておられた「Real Game USA」は、National Career Development Guidelines (USA) と Blueprint for Life/Work Designs (Canada) が協同で開発したプログラムで、小学校3,4年生用から12年生用まで、そして大人用が用意されたプログラムである。児童・生徒は、チームで協力しながら、ロールプレイを行い、シミュレーション的な活動を行いながら、地域の中に設定された役割を楽しく果たし、良い未来を作るために今学校で学んでいることを学ぶようになっていく。

実際、生徒への聞き取り調査では、3,4人のグループに、一つの職業が割り当てられ、グループで活動を行うとのことだった。このプログラムで割り当てられる職業は、地域（コミュニティ）を形成するのに必要な各種の職業、例えば、理髪店、銀行、料理人、レストラン経営者、医師、看護師（数種類の資格がある）、消防士、公務員など、多種多様な職業が準備されている⁶。後に Table 10 で示すように、社会科の目標の中に「社会に必要な職業がいかに多いかを知る」とあることから、ここで取り上げられている職業の多様性がかなり広いことは、それが社会科の目標の一つだからだろうと推察できる。そして筆者が学校を訪問した際には、それぞれのグループが、自分たちの調べた職業について、その概要だけでなく、後に示す年収や休暇、資本金、職業に就くまでにひつような教育などをまとめた、多種多様の発表用ポスターが学校の廊下に掲示してあった。

このプログラムには、このプログラムのホームページによると、5つの基本理念がある。それは、次の様なものである。

- 1) **変化はいつも起こるもの**；私たち自身も、社会も変化し続けている。成長するとは変化することだ。
- 2) **学び続けなくてはならない**；決して学ぶことをやめてはいけぬ。どんなものからでも、例えば学校だけでなく、テレビやコンピューターゲーム、本、友だちや加速からも学ぶことはできる。
- 3) **人生は旅のようなもの**；自分の現在の位置の確認が必要である。加えて、一度に一歩しか進むことはできない。
- 4) **自分に正直であれ**；目標と夢は異なり、夢を実現するのは難しい。しかし夢に向かって進むことを恐れるな

5) **他者を助けよう**；人生はチームでやるスポーツのようなもの。あなたのチームには、友だちや家族、教師、ご近所がいる。これらの人たちは、あなたを喜んで助けてくれるだろう、

つまり、このプログラムは、単に職業の種類や年収を調べるようなプログラムではなく、それらに加えて、人生は旅のようなもので、生きていれば、変化はいつも起こる。だから、学び続けなければならないし、人生の岐路では自分に正直である必要があることも合わせて伝えようとする側面を持っている。後に紹介するが、このプログラムには人生ゲームのような側面があり、突然、大損害を与えられるような場面が想定されている。そしてこんな人生を生きてゆくには、周囲の助けを借りることも大切で、あなたも他者を助けることが大切だ、という、幸福に生きるための行き方を教えるプログラムにもなっている⁷。この学区のキャリア教育が、単に「キャリア」ではなく「ウェルネスとキャリア」であり、「ウェルネス（幸福感）」という言葉がついているのも、この側面を強調したいがためではなかろうかと推察できる。

3. 教材の具体的内容について

今回、インタビューさせて頂いた生徒は、グループで弁護士を担当したという。そして、授業で使った資料を見せていただいた。ここでは、それらの資料をベースに、内要を紹介する。

a) 職業の紹介について

まず、弁護士という仕事の紹介については、資料1に示すような紹介を見せてくれた。これは、弁護士という仕事の紹介だけでなく、必要な教育、経験、求められるスキルが記載されている。加えて、年間に取りうる休日の数、1週間の余暇の時間まで示されている。「必要な教育」は、高校に入学してから、自分の選択科目を選ぶ際に役に立つし、「求められるスキル」は、自分に向いているかどうかを知る情報、自分が向上させなくてはならないスキルの情報となるだろう。

さらにユニークなのは、この紹介が、単に仕事の概要や年収を紹介するものではなく、弁護士の1日を紹介した、まるで小説のような中身である。朝から夜まで、分刻みで仕事に記載されている。確かに、弁護士の仕事の概要だけを見ても、具体的にどのような仕事なのか、イメージがわきにくい。しかし、このように、典型的な1日を朝から分刻みで具体的に記載してくれると、弁護士の毎日の生活について、おおよそイメージが抱きやすい。日本の職場体験も、職場のイメージを捉えるのに役に立っていると考える。しかし、あ

る特定の状況で決められた時間で体験できることには限度がある。仕事の概要、職場体験の他に、この資料のような、職業についての典型的な1日の時間に沿った詳細な記述する教材があれば、仕事のおもしろいところ、そうでないところ、大変なことを理解でき、仕事の選択の際の大きな規準となるように筆者には思える。

さらに興味深いのは、いったい、自分はどれくらい

の収入があれば生活ができるのかを具体的に計算するシートがあることである (Table 2)、これを具体的に記入してゆくと、自分はどれだけ収入を得る必要があるのか考えることができる。加えて興味深いのは、弁護士事務所を経営するとなると、給料と必要経費等の差し引きで、どれくらいの純益を得られるのかを計算するシートの存在である (Table 3)。特にその項目の中に「予備費」「チャンス」という項目があるのは注

Table 2 月額出費

・家賃 (賃貸料, ローンの支払い)	()
・交通費 (すべての車の月額支払いとその他交通費)	()
・車の維持費 (すべての車の維持費, ガソリン代など。交通費の20%は必要)	()
・諸経費 (電気, ガス, 電話, 組合費, 交際費など。家賃の30%は必要)	()
・食費 (250ドル以上は必要)	()
・衣類 (コート, ブーツ, 靴などを含める。1年分の余暇や仕事用の服の総額も12で割って追加する)	()
・保健衛生費 (トイレットペーパー, 石けん, 薬, 整髪代, 等)	()
・被服費 (クリーニング, タオル, 衣服等)	()
・教養・娯楽費 (映画, ビデオゲーム代, 外食, 新聞など; 週末の娯楽をすべてとりあげ, 4倍しなさい)	()
・特別費 (帰省, コンピューター, 年末年始の贈り物, など)	()
	月額支出 ()

Table 3 月額予算; 弁護士

(1) 一ヶ月の予算・・・弁護士	
・ 月額の収入総計	()
・ 給料支払い差引額	()
・ 純利益	() ¹
・ 費用 (Table 5から)	()
・ 予備費	() ²
・ チャンス	() ³
・ 最終的な月額予備費	() ⁴
・ 貯金額	()

1 →もし、赤字になったら2ページに戻りなさい。

2 →もし、月額の予備費がマイナスになったら、月額出費を見直して、予備費が0以上になるまで調整しなさい。

3 →チャンスカードを引いて、月額予備費に加えるか、差し引くかしなさい。

4 →予備費は0以上ですか?もしそうでなかったら、他のことを諦めなさい。もし予備費が余ったら、銀行に預金しなさい。

目に値する。そしてその脚注を見ると、それらはチャンスカードを引いて、その内容によっては、予備費が減ったり増えたりする仕組みになっているらしいことが窺える。「予備費はマイナスにならないように」、「予備費が余った銀行へ」とあることから、前述のこのゲームの基本精神の(1)にあるように、自分の生涯に何度か訪れるチャンスに備える態度を育む姿勢が窺える。

終身雇用が一般的な日本の社会で育った著者は、2000 当時、授業を視察した際に、「変化に富んだ人生を生きる」ことを、ゲーム形式でシミュレーションするのは、何となく、教育的配慮が足りないような気がした。しかし、後に報告するガイダンスの目標、社会科の目標などをつき合わせてみると、これは単にプログラムを面白くするために仕組まれたゲーム性ではなく、生涯を生き抜くことを教える学区や政府の方針であることがわかってきた。

例えば、Table 4 にあるこの学区の中学校の教育目標を見て頂きたい。この「7」を見ると、ガイダンスの領域として「変化と喪失を管理する」との領域が定められている。それに関わるゴールを見ると、「チームに貢献するメンバーになることと自己管理の可能性を持つこと」と記載されている。これらのことから、変化や喪失に対処する方法として、自己管理に加えてチームに貢献して互いに助け合うことを教えているアメリカの学校教育の様子が窺える。

また、前述の「Real Game USA」の基本理念の5番を再度見て頂きたい。ここにも「他者を助けよう」と

の項目が見られる。「他者を助ける」ことに関しては、Table 4 の中学校のガイダンスの目標の「9」「10」に、他者と対話するスキル、チームで貢献するスキルが、「自己管理するスキル」として重視されている。これらのことから、アメリカのガイダンスの理念の一つに、人生は変化に富んだもので、いろんなことがあるけれど、家族や友だち、ご近所など他者の助けを借りて、自分でしっかり自分を管理できる人になることが、中学校の目標であり、キャリアはそれに関わる科目でもあることが窺える。

b) 職業と性差について

この授業に関連する資料の中には、弁護士のような特定の職業についての紹介だけでなく、職業一般に関する情報も記載されていた。例えば、Table 5, 6 には、職業と性差について、クイズ形式で回答すると、知識が得られるようになっている。ここに記載されているような性差は、日本ではもっと多くあるかもしれない。しかし、日本にはそれらを系統立てて教育的に示してくれる資料は少ないように思える。

ところで性差について、筆者は、ある有名私大の女性研究科長から、次の様なエピソードを窺った。それは次の様な内容だった。「私の夫は重度の糖尿病で働きません。加えて医療費が必要です。ダウン症の息子もいます。健康な私は、家族を支えるため、他者より多くの収入を得られる仕事が必要なのです。私のような女性は多いと思います。男性、女性の関わりなく、人種に関わりなく、人によってそれぞれ事情が違うの

Table 4 中学校のガイダンスの領域とゴール

生徒のゴール	ガイダンスの領域
1 問題解決ができる。自分ならできるという気持ちを持つ。	学習と評価
2 複雑な問題解決ができる。	意志決定
3 情報を入手する	職業と教育（進路）の選択
4 自己管理に関し「できる」という意識を持つ	自己についての知識と進路選択
5 自己管理を可能にし、複雑な問題解決について考える／よい問題解決者になる	ゴールを設定しプランを立てる
6 自己管理ができそうだと思うこと	責任感
7 チームに貢献するメンバーになることと自己管理の可能性を持つこと	変化と喪失を管理する
8 自己管理できるという気持ち育てる	自己への気づきと成功へ導く態度の形成
9 責任感ある市民 & チームに貢献できるメンバーになること	他者への敬意と応答
10 上手な対話ができ、チームに貢献できるメンバーになる	人と人との関係に関わるスキルとそのプロセス

青木 (2007b より作成)

ですから、最初から性別によって、人種によって収入に差があるというのは、一部の人に生涯取り戻せないハンディを与えることになるのではないのでしょうか。このお話を伺って、筆者は性別や人種等、本人の努力で変えることのできない要因でハンディがあることが、生涯の差別に繋がることが納得できた。しかし、実際の現実社会には、やはり、いろんな形で差別や偏見があるように思える。それならそれで、とにかく、現状に関する情報を提供してゆけば、自分が「どんな人生を選んでゆくのか」という判断基準になるかもしれない。その資料や情報もなく、やり直しのききにくい社会に出て現実と直面しても、遅すぎるのかもしれない。私は Table 5,6 の資料を見て、そう考えるようになった。

c) 余暇の計画

このプログラムでユニークなのは、「年間に取れる休暇」（資料1）「1週間の余暇」の時間を明記したり、余暇を割り出す試算をさせるシートが存在である（Table 8）。確かに、職業を決める際、自分の人生設計との兼ね合いを考えるなら、これらの情報は、必要不可欠な情報に違いない。ある人にとっては、キャリア・アップの時間は必要だし、ある時期には余暇の多い仕事を選ぶ必要もあるかもしれない。このように考えると、余暇に関する情報を提供した方が、各個人が自分の人生設計にあった職業選択をしやすくなるに違いない。考えてみると、職業と余暇のバランスを考えると、ある人にとっては職業選択の際に重要な要因になるに違いない。

Table 5 職業と性別役割

次の仕事や活動は、男性にふさわしいでしょうか？女性にふさわしいでしょうか？
それとも、両方にふさわしいでしょうか？

仕 事	
(1)料理人	(15)秘書
(2)配管工	(16)政治家
(3)パイロット	(17)店員
(4)大工	(18)エンジニア
(5)看護師	(19)建築家
(6)医者	(20)タクシーの運転手
(7)フォークリフトの運転手	活 動
(8)電気技術者	(1)光熱費等、請求書の支払い
(9)鉄骨組立工	(2)掃除
(10)機械工	(3)料理
(11)小学校の先生	(4)子供の世話
(12)商店のレジ係り	(5)食料品の買い出し
(13)フライトアテンダント	(6)洗濯とアイロンかけ
(14)受付係	(7)ゴミ出し

Table 6 職業と性差

性差について振り返ろう。次の項目は正しいだろうか、間違っているだろうか。

- ・1990年代では、男性と女性は普通、同額の給料をもらっている。
- ・4万人以上のアメリカ人女性は働いている。
- ・フルタイムで働いている女性の平均年収は、フルタイムで働く男性の71%である。
- ・すべての職場で、同数の男性と女性が働いている。
- ・ほとんどの場合、一人親家庭では、男性が子供を扶養している。
- ・男性と女性で共働き家庭の場合、男性と女性の給料は普通同額である。
- ・一人親家庭で子供を養育している女性の収入は、一人親で子供を養育している男性の60%である。
- ・1992年までに、40%の働く女性は、伝統的に女性の仕事でない職場で働くようになった。
- ・雇用の均等とは、人を雇う際に男性と女性に等しく機会を与えることである。

しかし、日本のキャリア教育に、余暇を視野に入れた職業紹介を行っているのだろうか。加えて、Table 7, 8に見られるように、その余暇を有意義に過ごすのに、どれくらいの収入と労働時間が必要かを具体的に試算させているのだろうか。余暇はあっても、余暇を楽しむにはある程度の資金が必要になる (Table 7)。アメリカには、これらのことを、社会に出る前にしっかり認識させるプログラムがあることが興味深い。

最初に述べたように、視察した授業のタイトルは「キャリア」ではなく、「ウェルネスとキャリア」である。

仕事だけでなく、余暇についてしっかり考えることも、ウェルネスに繋がるという発想なのかもしれない。

4. 社会科の教科としての目標と授業の関係

本稿で紹介したのは、「ウェルネスとキャリア」の中で、社会の先生が担当しておられた授業であった。そこで最後に、教科としての社会科の目標とこの授業の関連を資料から考察することにする。

Table 7 余暇の使い方

活動	時間	増収 (+), 減収 (-)
・ネットサーフィンをする	1	0
・パートタイムの仕事をする	3	+30ドル
・友人とカフェへ	1	-40ドル
・ランチを食べる	1	-1000ドル
・		
・		
・		
・		
・		
・		
・		
週の合計		+\$ (), -\$ ()

Table 8 時間の使い方と余暇

活動	時間×日数	週あたりの時間
仕事	() × () = ()	
通勤	() × () = ()	
準備	() × () = ()	
睡眠	() × () = ()	
洗濯	() × () = ()	
食事	() × () = ()	
買い物	() × () = ()	
修理や雑事	() × () = ()	
掃除と支払い	() × () = ()	
余暇	() × () = ()	
一週間の時間の総計		168時間

Table 9 社会科を構成する具体的項目

a) 社会への気づき (Social Awareness)
b) 人の多様性 (Human Diversity)
c) 伝統と変化 (Tradition and Change)
d) 地理 (Geography)
e) 経済 (Economics Education)
f) 統合 (Connections/Integration)
g) 情報の活用 (Use of Information/Communication Skills)
h) 問題解決 (Problem Solving)
i) 人生とキャリアの計画スキル (Life and Career Planning Skills)

(注) a)~i)の記号は筆者がふったもの

Table 10 社会科における中学校のキャリア教育の具体的目標

6年生のキャリア

生徒は、次のことをしようとする

1. 社会に必要な職業がいかにかいかに多いかを知る (強化項目)
2. 現代社会と過去の社会で生きてゆくためのスキルを比較し、対比する (入門項目)

7年生のキャリア

生徒は、次のことをしようとする

1. コミュニティのサービスに、さまざまな職業が関わっていることがわかる (強化項目)
2. 今の社会で必要な生きるスキルを調査し、それを自分に必要な人生にしたがって評価する (強化項目)
3. 公的機関の影響力の強さに気づき、自分の人生にいかにか役に立つかを分析する (入門項目)
4. 政治は、公共機関を通して、私たちの生活に影響を及ぼしていることを認識する (入門・強化項目)

8年生のキャリア

生徒は、次のことをしようとする

1. 今、話題のもの (例えば、環境の専門家、国際的な外交をする人、健康管理) を勉強したら、将来、どのような職業的機会に恵まれるかを仮定してみる (入門)。
2. さまざまな社会的役割について、組織、協同、コミュニケーション、時間管理という生活スキルを当てはめてみる。

(注) 「保護者用のカリキュラム解説」より

この学校の保護者用ハンドブック⁸の中に記されているものを見ると、社会科の目標は Table 9 に示す内容となる。これを見ると、社会科の内容は、日本で馴染みのある「歴史」「地理」等の他に「多様性」「社会への気づき」「問題解決」など、日本では余り馴染みのない項目が並んでことがわかる。さらに、最後の項目として、「人生におけるキャリアの計画スキル」が上げられている。このことから、社会科の先生は、「ウェルネスとキャリア」という授業の中で、社会科の目標達成の授業を行っているのではないかと推察できる。

次に、Table 10 に、同じく保護者用ハンドブックから、上記の社会科の内容、「人生におけるキャリアの計画スキル」の詳しい具体的内容を記載した。この具体的な目標を見ると、「コミュニティのサービスに、さまざまな職業が関わっていることがわかる」「公的機関の影響力の強さに気づき、自分の人生にいかに関与するかを分析する」「政治は、公的機関を通して、私たちの生活に影響を及ぼしていることを認識する」など、社会科のキャリアの目標とは、単に職業の紹介について取り上げ、それらを体験をするようなものではないことがわかる。ここで求められているのは、Table 10 のことばを用いるなら、社会で生きるスキルを現代と過去で比較（6年生の2.）、評価する力（7年生の2.）、それを自分の人生設計と関連づける力（8年生の1.）、さらに地域社会が様々な職業で成り立っていることを知り、仕事の多さに気づかせたり（6年生の1.7年生の1.）、現代社会で萌芽的なものが、将来、どんな職種を生み出すかを予測したり（8年生の1.）、コミュニケーション、協同、時間管理スキルなどのスキルや社会的な役割と仕事について考えさせることが目標となっている（8年生2.）。これらの中は日本の学校でのキャリア教育の中で、余り取り上げられていない視点が多くあるように筆者には思えた。

5. まとめ

最初に述べたように、20世紀初頭、アメリカ社会に登場した職業指導運動、精神衛生運動とその後に関与された教育運動が世界のガイダンス・カウンセリングの発展に大きく寄与した。ガイダンスとは、「個人を、彼の生活における危機的な事態に際して、賢明な選択・適応・判断を行うように援助することである」（Jones, A. 1951）と一般に言われている。

本稿の視察の結果、アメリカのキャリア教育について次のようなことが窺えた。それは、Jones (1951) のガイダンスの説明にあるように、危機的な事態に際して、賢明な選択、適応、判断が行えるように、職業に関す

る情報を、仕事の具体的内容から必要な学歴、資金、スキルに関して情報提供し、それでも危機に陥ったらどう対処するかをシミュレーションで教え、精神的な健康を保てるように他者を助けたり、チームで働くことの重要性を伝えたりするキャリア教育である。

性別に関しては、社会の「現状」を伝えて、それらを自分自身の判断に役立てることができる教材が組まれていた。加えて、仕事選びに余暇を考慮すること、余暇を充実させるのに必要な経費と時間を試算させ、余暇を楽しむ具体的な方法を教え、他者を助けること、チームに貢献することが奨励されていた。これも、人生の危機に直面したとき、精神的健康を保つ秘訣の一つかもしれない。つまり、Jones(1951)のガイダンスの定義にあるように、自分が懸命な選択、適応、判断をするのを助けるキャリア教育がなされていると言えるだろう。

考えてみれば、現代の日本のように、社会に出て、仕事をするだけの毎日の中で、想像したこともない不遇な境遇にいきなり陥るより、社会に出る前、まだ周囲に仲間や教師や両親がいて、サポートしてくれる人が多くいる中で、危機に陥った場面をシミュレーションしてみたり、多くの仕事が地域にあることに気づいたりする場面を設ければ、周囲の人のアドバイスも助言も得られて、キャリアについて多様な視点で考えやすくなり、ウェルネスと結びつきやすくなるのではなからうか。仕事しかししないで、ご近所や家族からも孤立してしまうよりも、学校教育の中で、助け合うこと、チームで働くことの重要性を繰り返し教えた方が、精神的にゆとりが持て、ウェルネスを高めることができるのではなからうか。

日本の文部科学省の資料にも、生徒指導については「ガイダンス機能を重視すること」と記載されている。しかし日本にはアメリカのようなガイダンス領域やゴールが明確に定められているわけではない。加えて、個人が自分自身で、自分のライフスタイルに合わせて意志決定するための資料が揃っているとも言い難い。本稿はキャリア教育を専門としているとは言い難い筆者の視察報告に過ぎないが、日本でガイダンス機能を充実させるためには、まだまだ取り組まなくてはならない課題が多いように思えた。

引用文献

- 青木多寿子 2006 カンザス州（米国）で見たスクールカウンセラーの活躍；小学校編（単著）岡山大学教育実践総合センター紀要 第6巻，119-129。
青木多寿子 2007a ブルーミントン北高校のカリ

キュラムから見たアメリカの高校教育 — 多様性の大きさと専門性の高さを中心に (単著) 「教育実践学の理論構築及びモデル研究」, 兵庫教育大学連合大学院共同研究プロジェクト E (平成 17 年 -19 年), Pp.78-87.

青木多寿子 2007b 「ベスト実践集 (1997)」に見るカンザス州 (米国) のカウンセリングプログラムの開発 (単著) 学習開発学研究 広島大学教育学研究科学習開発学講座, 1, 73-82.

Jones, A. J. 1951 “Principle of Guidance; and pupil personnel work”. New York. McGraw-Hill Book Company, Inc.

Kalman, B, 1998 “Community Helpers from A to Z”, CREABTREE Publish Company.

Real Game USA ; <http://www.realgame.org/index.html>

吉田辰雄 2006 生徒指導・進路指導の歴史と展開

吉田辰雄編「最新 生徒指導・進路指導論; ガイダンスとキャリア教育の理論と実践」図書文化

参考資料

- A Parent Handbook for Academics, Learning, and Intellectual Development in the Middle School.; Blue Valley Middle Schools, 2000.
- 中学校学習指導要領 (抄), 平成 20 年 3 月 28 日 文部科学省告示第 28 号 2008.

注

- 1 また青木 (2006) は, この中学校に接続する小学校と隣りの学区の公立小学校を視察し, 小学校に常駐するスクールカウンセラーが中心となって取り組むキャリア教育を紹介している。また, 青木 (2007b)

では, この学区の幼稚園年長組から高校までのカウンセリング・プログラムの詳細を紹介している。

- 2 日本の小学校 6 年生にあたる 12 歳から 3 年間で中学校に含まれる。
- 3 アメリカでは, 義務教育は学年ではなく, 年齢で決まっていて, 18 歳までが義務教育であるところが多いと聞いている。
- 4 本稿で紹介する資料は, オリジナル資料の主旨を変えない程度に削除, 加筆等の修正を行ったものである。
- 5 筆者が 4 種類, それぞれの授業を視察させていた限りでは, 取り上げられていたのは, 国語の先生はセクシュアリティについて, 理科の先生は生活の環境や薬物 (ドラッグ) について話をしておられた。そのほか, テクノロジーについて話をしておられる先生もおられた。
- 6 ここで取り上げている職業の多様さは, Table 10 の社会科の 6 年生の目標からすると, 教育目標の一つであることがわかる。他方で, 職業の多様性をアルファベット順で紹介する絵本 (Kalman, 1998) があるが, このタイトルは “Community Helpers from A to Z” となっている。つまり, この本は単に職業を紹介するのではなく, 「地域を助ける人たち」とのタイトルからも, アメリカでは職業が地域を支える仕組みとの関連で語られていることが窺える。
- 7 上記の Kalman (1998) の絵本では, 「Y」で始まる職業について, 「それは, あなた (You) です。あなたがお近所でするお手伝いはたくさんあります」という内容が記されている。このことから, 「助け合う」ことを大切にしている教育の姿が窺える。
- 8 保護者には, 学区の名前でハンドブックが配付されており, その中に 1 年間, 各教科が何を教えるのかを詳しく明記している。

資料1 職業紹介：弁護士

領域	領域説明
人間関係形成能力	他者の個性を尊重し、自己の個性を發揮しながら、様々な人とコミュニケーションを図り、協力・協同して物事に取り組む
情報活用能力	学ぶこと・働くことの意義や役割及びその多様性を理解し、幅広く情報を活用して、自己の進路や生き方の選択に生かす
将来設計能力	夢や希望を持って将来の生き方や生活を考え、社会の現実をふまえながら、前向きに自己の将来を設計する
<p><仕事の描写> あなたは州の非営利団体の常勤職員です。そこで弁護士に相談できない人たちに無料法律相談を担当しています。その事務所には、広範の多様なケースを扱う弁護士があなたを含め、3人います。長い時間働く必要があり、時には週末まで仕事をします。</p>	
<p><月の収入> 2800ドル</p>	
<p><必要な教育と経験> 高校を卒業して、文化系大学で4年間勉強して学位を取ります。その後、法科大学院に入学して3年学んで法律の学位を取ります。その後、州の弁護士資格試験に合格します。弁護士の資格を取るのに1年間、見習いをします。</p>	
<p>関連のある学校の教科：国語 (Language arts), 社会, 数学</p>	
<p><求められるスキル (Transferable skills) > : 法律を分析し、人を納得させる。</p>	
<p><年間に取れる休暇> 3週間の長期休暇</p>	
<p><1週間の余暇> 10時間</p>	
<p><ある法律家の一日常></p> <p>朝9時に法廷に着いた。依頼人が玄関で待っていた。依頼人と一緒に事務手続きをし、依頼人の法廷の部屋に入った。あなたは時間まで、裁判官に質問されそうな問題について目を通した。</p> <p>朝9時に法廷から呼び出された。いよいよあなたのケースが呼ばれた。依頼人は裁判官の質問にすらすらと答えた。あなたはこのことを取り上げ、依頼人の勇気を裁判官にアピールした。具体的には、依頼人の妹は、麻薬中毒で自分の子どもの面倒が見られない。彼女こそ後見人にふさわしいと主張した。裁判官は、依頼人の方が子どもたち後見人にふさわしいと確信し、「後見人としての権利を認める」と裁定した。</p> <p>10時45分までに、あなたは事実と一致する法的な記録を用意して法廷を去ろうとした。しかしその前に、請け負っている他のケースに影響しそうな文書がでていないかチェックした。それから、昼食の約束に間に合うように急いだ。ある大きなソフト会社のお抱え弁護士が、州の「公共サービス」であるあなたに自分のケースを相談に来ていた。サンドイッチを食べる昼食時間を利用して、彼女にアドバイスを与えた。</p> <p>午後1時15分に事務所に着いたら、6本の留守電が入っていた。受付係から、突然、来客が来たと伝えられるまでの間、留守電の対応をした。この突然の依頼人は過払いのローンを取り戻したいという。しかしどうしたらよいかわからないという。あなたは彼に言った。「書類が揃うまで待つて欲しい。そしてそれから予約を入れてくれ」。</p> <p>依頼人が3時に着いた。彼のアパートの主人は、彼が家賃を払わないので立ち退かせようとしていた。このことで彼はとても気が動転していた。彼を落ち着かせるのに10分かかった。加えて事実を正面からとらえ、知人が彼に与えた悪いアドバイスを訂正するのにさらに20分かかった。彼のアパートには一ヶ月半も電気・ガスが通っていない。彼に届いた裁判所の書類にも間違いがあるのに気づいた。</p> <p>あなたは電話での対応と書類書きで一日の仕事を終えた。その書類とは、研究記録から調べたケース、コンピュータに保存したケースなど、いろんなケースを調べてまとめた書類で、これを用いて依頼人の文書を用意する。6時になって仕事を止めた。あなたはとても疲れていた。しかしそれでも、自分の生活は、自分が今日会ったほとんどの依頼人ほどにはストレスの多い生活ではないことを嬉しく思っている。</p>	